

芸術活動など

リズムに合わせて踊ろう

市文化振興財団がクラシック教室



柔らかな音色を響かせたアルポストリオ

富士市文化振興財団は先ごろ、厚原のたかおかこども園で0歳児から年長児約210人を対象に「おでかけクラシック」を開いた。

芸術、趣味、生活e.t.c

文化の窓



元気いっぱいに体を動かす園児

古川春美さん(パーカッション) 久米涼子さん(ピアノ) 望月恵さん(マリリンバ) による3人組ユニットのALBOS(アルボス)トリオが、クラシックやポップスなどの演奏を届けた。3人は鍵盤ハーモニカ、太鼓、タンバリンで『さんぽ』を演奏しながら登場。園児たちの拍手子に包まれる中、

場内をぐるりと一周した後に登壇し、『道化師のギャロップ』などを響かせた。『You raise me up』では、「大切な人を思っ作られた曲。皆さんにもお父さんやお母さんなど、いつも自分のことを応援してくれる人がいることを忘れないでほしい。優しい気持ち広がるように」という思

いを演奏する」と話し、柔らかな音色を届けた。軽快なリズムの『ブリンク・ブリンク・ブリンク』では、園児たちが音色に合わせて体を元気にいっぱい動かした。メロディーに合わせて楽器を紹介する『山の音楽家』の演奏なども盛り込んだ。おでかけクラシックは、市文化振興財団のアウトリーチ事業で、小学校や高齢者施設などでも実施している。アルポストリオは個別に演奏活動をしてきた3人が、音楽イベントをきっかけに結成し、2014年から本格始動した。アルボスはラテン語で樹木という意味で、3人の楽器がそれぞれ木で作られていることに由来する。樹木から感じられるパワーや温もりのように、心が満たされる音楽を目指して活動を展開している。

情報提供などは編集部(☎87-1798)まで